

【ロジックモデル】戸建住宅ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）化等支援事業（脱炭素ライフスタイル推進室）

令和2年10月14日時点

課題／目的

- ・近年の自然災害の激甚化により、停電が大規模・長期化する事例が散見。停電により空調が使用できないことで、夏季の熱中症、冬季の低体温症発症のリスクが拡大。「**気候変動×防災**」の観点から、**自立的なエネルギー確保の重要性が高まっている。**
- ・**ヒートショックによる死亡者は年間1.7万人であり、交通事故による死亡者約5千人の3倍以上。**
- ・コロナウイルス感染症対策として、「3密」を避ける生活が重要であるため、在宅時の住宅のエネルギー量を減少させる取り組みが必要。
- ・エネルギーを自給自足することで、災害に強く健康にも良いネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）への補助を通じ、**ZEHを建築できる事業者を増やすとともに、価格低減を図ることによりZEHの自立的普及を促す。**

- ・2018年9月台風21号：240万戸・5日間、9月北海道胆振東部地震（ブラックアウト）：295万戸・3日間、9月台風24号：180万戸・3日間、2019年9月台風15号：93万戸・12日間、10月台風19号：52万戸・4日間
- ・高齢者の入浴中の急死に関する調査（東京都健康長寿医療センター研究所）

インパクト

- ・住宅からのCO2排出マイナス
- ・平時におけるヒートショック、熱中症の低減。非常時における低体温症、熱中症の低減
- ・感染症対策におけるニューノーマルな生活様式

- ・家庭部門のCO2排出実態統計調査（環境省）
- ・住宅性能と健康に関する各種調査研究

インプット

- 【予算】 令和3年度：6,550百万円（要求額）
- 【実施期間】 令和3年度～令和7年度
- 【補助先】 ①～④ZEH+またはZEHを建築する者
⑤戸建住宅の断熱リフォームを行う者

ZEH補助：60万円/戸
ZEH+補助：105万円/戸
高断熱化ZEH+：140万円/戸

アクティビティ

- ①自家消費拡大を目指したより高性能なZEH（ZEH+）に対する定額補助
- ②ZEH+の要件を満たしつつ、更に高断熱化した住宅への追加補助
- ③ZEH（新築・改修）に対する定額補助
- ④①～③に蓄電池を設置、低炭素化に資する素材（CLT（直交集成板）等）を一定量以上使用、又は先進的再エネ熱利用技術を活用する場合補助
- ⑤既存戸建住宅の断熱リフォーム等への補助

家庭部門における2030年度40%削減には、電力排出係数の改善26%を除き、14%の省エネが必要
⇒ZEHは省エネ基準から20%以上、ZEH+は25%以上の省エネが要件

アウトプット

- ・ZEHビルダーの増加
- ・ZEH化、断熱リフォームの低コスト化
- ・新築戸建住宅市場におけるZEHの増加
- ・リフォーム市場における断熱リフォームの増加

- ・ZEHビルダー/プランナー実績報告（登録件数は2016年：5,636件→2019年：7,547件、ZEH、ZEH+のエネルギー使用状況は事業者アンケートにより把握）
- ・建築物リフォーム・リニューアル調査報告（国土交通省）

アウトカム

- 短期）省エネ基準を上回る断熱性の高い住宅（ZEHやZEH+）の自立的普及
- 中期）2030年までに新築住宅の平均でZEHを実現
- 長期）今世紀後半のできるだけ早期に住宅ストック平均のエネルギー消費量の正味でおおむねゼロ以下の実現

エネルギー基本計画やZEHロードマップ（経産・国交・環境3省と住宅業界で共有）のフォローアップ作業の中で検証